

## 中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査日	6月28日(金)14:00~16:00
調査先	公益財団法人日本サッカー協会
担当教職員	国際経営学部事務室 熊谷 穰
担当 CVS	片岡 良臣 加藤 真帆 松野 雄一郎 熊崎 希美 丸山 航汰
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	1年生 10名 2年生 11名 3年生 4名
調査趣旨・目的	日本サッカー協会の業務内容について知り、設立背景や公益財団について知る。 blue-ing!という施設の役割と、この施設を通じた取り組みについて理解する。
調査結果	<p>文京区の東京ドームシティ内にある公益財団法人日本サッカー協会(以下 JFA という)が運営する JFA サッカー文化創造拠点である施設「blue-ing!」にて、JFA 経営企画部戦略グループの岡村諭氏と大橋純斗氏にお話を伺った。</p> <p>まず岡村氏より、blue-ing!について詳しく説明していただいた。blue-ing!は日本におけるサッカーの発信拠点、ならびに文化創造の場として創られ、人工芝の床やカフェやグッズ売り場の設置、東京ドームから家族連れを引き込むことができる作りなど、まさにサッカーの発信拠点としての役割を備えていた。また、小さい子供のためのサッカー教室の開催や大型モニターによるパブリックビューイングの実施、スポンサー企業の協力を得てのビアガーデンなど、文化創造の面でも多様な活動を行っていた。実際に15分ほど施設内を回ってみたが、新ユニフォームの先行発売やくつろぐことのできるカフェスペースなど、サッカーにあまり詳しくない方でも入りやすい、楽しみやすい作りとなっていた。</p> <p>その後、有料エリアであるディスカバリーエリアを紹介していただいた。この場所は落合陽一氏の監修のもと製作されており、落合氏の作品も展示されている。このエリアでは日本代表のワールドカップでのこれまでの軌跡が見ることができるようになっており、ドーハの悲劇の際に使われていた作戦ボードや、JFA 会長である宮本恒靖氏がかつてバットマンと呼ばれる由来となったフェイスガードなど、代表に関連する貴重なアイテムを見ることが出来る。また、代表戦でのゴールシーンを三つの視点から見ることのできるバーチャルフィールドや代表選手の動画を自分の顔に変えることのできるディスプレイ、展示されていない物品を3D で見ることのできるモニターなど、体験型の装置が豊富な場所となっていた。</p> <p>最後に質疑応答の時間を設けていただき、1つ1つ丁寧に対応いただいた。国際大会での様々な困難や、今後の女子サッカーの振興について、そして日本サッカー協会の活動方針についてなど、多くの知見を得ることができた。</p> <p>今回の訪問を通して、普段目にする事のないサッカーの裏側の一面を知ることができ</p>

た。私たちは普段、サッカーの試合や選手の練習などを見て楽しんでいる。しかしその裏側では、大会を円滑に運営するために働いている人、サッカー人口を増やすために様々な企画を考えている人、国際的な交流を進めようとする人など、様々な人たちの尽力があり、その方々のおかげで我々はサッカーを楽しむことができている。現状を分析し、その条件に合う、最大限の効果が得られる、また、収益を上げようと努めているその姿勢は、私たち国際経営学部生が学ぶべき企業的な側面であったと思う。

※調査時の写真



施設見学の中、学生からの質問に丁寧に対応いただきました



企業訪問終了時の集合写真、サッカーのフィールドにいるような感覚になりました

以上